

## 第13回世界冬の都市市長会議の概要

- 1 **開催期間**：平成20年1月18日（金）～1月20日（日）3日間
- 2 **開催市（会議主催都市）**：グリーンランド・ヌーク市
- 3 **出席者**：会員都市およびオブザーバー都市の市長または代理 20都市程度
- 4 **会議全体テーマ**：北極圏における気候変動（“Climatic changes in Arctic”）

### 5 市長会議協議テーマ（現段階の内容）

#### （1）「北極圏で今何が起きているのか」～気候変動と北極圏における若者の生活環境

##### 【テーマの趣旨】

気候変動が北極圏の人々、特に若者のライフスタイルに与えた影響を題材に、北極圏で進行している地球温暖化問題の現状を報告し、問題の深刻さに対する認識を深める機会とします。また、テーマ（2）に対する問題提起にもなります。なお、グリーンランドの気候変動については、冬の都市フォーラムでも数人から発表が予定されております。

#### （2）「冬の都市は今何ができるのか」～冬の都市における地球温暖化対策

##### 【テーマの趣旨】

地球温暖化問題に対しては、その影響度が大きい冬の都市が率先して対策に取り組むことが重要であり、国際社会へのアピールにもつながります。そのような認識の下、冬の都市環境問題小委員会による調査報告や会員都市による優良事例の紹介を通じて、参加都市の経験・ノウハウの共有を進め、冬の都市の連帯感を高めていきます。

### 6 プログラムの概要

#### （1）市長会議（1月18日～20日）

##### □ 市長会議オープニング [1/18]

参加市長および下記（2）の冬の都市フォーラムに参加する学識経験者が一堂に集まって開会式を行います。上田札幌市長（世界冬の都市市長会会長）、ヌーク市のニコライ・ヘインリッチ市長が開会あいさつをした後、デンマーク気象研究所のジェンス・ヘッセルバルグ氏による基調講演があります。

##### □ 世界冬の都市市長会役員会・総会 [役員会 1/18、総会 1/19]

世界冬の都市市長会の役員、予算・決算、事業計画および今後の運営課題などについて協議します。

##### □ 小委員会報告 [1/20]（市長会議の中で報告予定）

市長会に設置されている小委員会「冬の都市環境問題小委員会（事務局：札幌市）」から、その調査および研究成果について中間報告を行い、市長会議での協議の材料を提供します。

□ 市長会議 [1/19、1/20]

上記5の市長会議の協議テーマについて、開催市から基調報告および参加都市からの事例紹介等に基づいて市長間で意見交換を行い、それぞれの都市の経験、知識を互いに学び合います。

□ 全体会議 [1/20]

市長会議の協議結果を総括し、世界冬の都市市長会として地球温暖化問題に取り組む方向性や姿勢を記した「ヌーク宣言」を採択する予定です

**(2) 冬の都市フォーラム（1月18日～19日）**

会議開催地のグリーンランドおよびデンマーク、ノルウェー、アメリカ、日本から13人の研究者・実務者が集まり、グリーンランドや北極圏などの気候変動に関連したテーマについて、それぞれ講演を行う。日本からは3人が参加予定。

**(3) 冬の見本市（1月18日～20日）**

グリーンランドの民間企業や会員都市からの出展を得て気候変動をテーマとした見本市を開催する。ブース数は約40。日本からは（財）札幌国際プラザが出展予定。

## 7 第13回市長会議の特徴

### (1) グリーンランドおよび北極圏の現状を世界に発信

自治体レベルの国際会議はグリーンランドで初めての開催。会議開催市のヌーク市では、地球温暖化問題による影響が北極圏で最も顕著に現れているという認識の下、市長会議および冬の都市フォーラムで行政や学術上のさまざまな視点から問題を参加者に訴える。

(具体例)

- 市長会議では「北極圏における若者の生活環境」をテーマに気候変動がライフスタイルに及ぼす影響について取り上げる。
- 冬の都市フォーラムでは「グリーンランドの氷床の運命」「グリーンランドにおける気候変動の最新の調査」など学術的な観点からの発表が用意されている。

### (2) 札幌市の貢献

市長会議では平成19年3月策定の「札幌市温暖化対策推進計画」やエネルギー施策、さらにはことし行う「環境首都・札幌」宣言の取り組みを紹介するとともに、冬の都市フォーラムにおける北海道大学低温科学研究所の取り組み紹介などを通じて、札幌の優れた活動を世界にアピールする。

問い合わせ先

総務局国際部交流課 担当：奥村

電話 2 1 1 - 2 0 3 2

# 世界冬の都市市長会の概要

## ■ 設立目的及びこれまでの経緯

### 1 設立の経緯

“冬の都市”は、積雪寒冷の厳しい気象条件に適したまちづくりを行わなければならないという共通した課題を抱えています。「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、気候・風土の似ている世界の北方の都市が集まり、共通する課題について話し合うことを目的に1981年に「北方都市会議」を札幌市が提唱したのが始まりです。

1982年には第1回北方都市会議が札幌で開催され、その後の継続的な開催を通じて、北方都市間の独自のネットワークに成長しました。1988年の第3回会議からは、冬の技術や製品を展示し経済交流を図る「冬の見本市」、専門家や学術研究者が冬のまちづくりについて研究成果を発表する「冬の都市フォーラム」が併せて開催されるようになり、「北方都市会議」は、人、もの、技術、情報が行きかう北方圏における大規模コンベンションに発展しました。

このネットワークを更に強化し、北方圏全体の発展のために北方都市が連帯して行動することを目的に、1994年に会員制を導入した恒常的な組織「北方都市市長会」を設立し、会議の名称を「北方都市市長会議」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学ぶことができました。

また、2002年からは、会員都市の実務者による「実務者会議」を毎年開催し、市長会議で議論するテーマや市長会の運営等について協議を行っています。

### 2 「世界冬の都市市長会」への改編

さらに、2004年に米国・アンカレッジ市で開催された第11回会議において、冬の課題を抱えるより多くの都市と“快適な冬のまちづくり”に関する課題について話し合うために、会員の対象範囲を北方地域以外の都市にも拡大することとし、会の名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

なお、会長は設立当初から現在に至るまで札幌市長が務め、札幌市国際部に事務局が置かれています。

#### \* 冬の都市とは…

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準…1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm.（8インチ）以上となること。

寒冷の基準…1年間のうちで最も寒い月の平均気温が概ね摂氏0度（華氏32度）以下となること。

■ 会員都市 11カ国 20都市 (2007年12月現在)

国名	都市名
カナダ	プリンス・ジョージ
中国	長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、チチハル、瀋陽
エストニア	マールドゥ
グリーンランド	ヌーク
日本	青森、札幌
韓国	太白
リトアニア	カウナス
モンゴル	ウランバートル
ノルウェー	トロムソ
ロシア	マガダン、ノボシビルスク、ユジノ・サハリンスク
米国	アンカレッジ

■ 過去の会議

会議名	開催市	期間	参加都市数
第1回北方都市会議	札幌	1982/2/7～10	6カ国9都市
第2回北方都市会議	瀋陽	1985/9/19～22	6カ国10都市
第3回北方都市会議	エドモントン	1988/2/13～15	12カ国17都市
第4回北方都市市長会議	トロムソ	1990/3/2～4	10カ国20都市
第5回北方都市市長会議	モントリオール	1992/1/17～21	11カ国34都市
第6回北方都市市長会議	アンカレッジ	1994/3/5～10	10カ国30都市
第7回北方都市市長会議	ウィニペグ	1996/2/9～12	9カ国33都市
第8回北方都市市長会議	ハルビン	1998/1/15～18	10カ国49都市
第9回北方都市市長会議	ルレオ/キルナ	2000/2/12～16	10カ国26都市
第10回北方都市市長会議	青森	2002/2/7～10	13カ国28都市
第11回北方都市市長会議	アンカレッジ	2004/2/18～22	11カ国27都市
第12回世界冬の都市市長会議	長春	2006/1/15～18	13カ国29都市
第13回世界冬の都市市長会議	ヌーク	2008/1/18～20	
第14回世界冬の都市市長会議	プリンス・ジョージ	2010/	

■ 年会費 (1月1日～12月31日)

(a) \ (b)	\$0-9,999	\$10,000 以上
0-499,999 人	\$1,000	\$2,000
500,000-999,999 人	\$1,500	\$4,000
1,000,000 人以上	\$2,000	\$6,000

\* (a) : その都市の人口

(b) : その国の1人当たりのGDP (国内総生産額)

\* 入会初年度の会費は半額

## 出張日程

2008.1.4現在

月 日	内 容	滞在
1/15(火)	<b>【移動】</b> ・新千歳空港発 名古屋着 ・名古屋発 ヘルシンキ着 ・ヘルシンキ発 コペンハーゲン着	コペンハーゲン
1/16(水)	・コペンハーゲン滞在 (市役所訪問、行政視察、大使館との意見交換等)	
1/17(木)	<b>【移動】</b> ・コペンハーゲン発 カングルルスアーク着 ・カングルルスアーク発 ヌーク着	ヌーク
1/18(金)～20(日)	・第13回世界冬の都市市長会議	
1/21(月)	<b>【移動】</b> ・ヌーク発 カングルルスアーク着 ・カングルルスアーク発 コペンハーゲン着	コペンハーゲン
1/22(火)	<b>【移動】</b> ・コペンハーゲン発 ヘルシンキ着 ・ヘルシンキ発	(機中泊)
1/23(水)	<b>【移動】</b> ・関空着 ・関空発 新千歳着	